

(1)

論文タイトル

胸水出現から診断に2年を要したウエステルマン肺吸虫症の1例

著者名

栗山 満美子, 森下 真圭, 荒木 勇一朗, 石原 明典, 前田 浩
義

所属機関

名古屋市立東部医療センター 呼吸器内科

(2) 要旨

症例は 74 歳男性．左大量胸水を指摘され受診した．胸水中好酸球増多を認めたが，血清抗寄生虫抗体検査で有意な上昇を認めなかった．好酸球増多症の診断でプレドニゾロンが開始され，胸水は減少した．しかし 2 年後に左胸水の再貯留を来たし，血清抗寄生虫抗体検査を再検したところウエステルマン肺吸虫に対する抗体が陽性であった．問診にて初診前にイノシシ肉の摂取が判明し，ウエステルマン肺吸虫症と診断しプラジカンテル内服を開始したところ著効した．注意深く病歴を確認することは肺吸虫症を診断確定するために重要である．

(3) キーワード

ウエステルマン肺吸虫症 Paragonimiasis westermani

好酸球性胸水 Eosinophilic pleural effusion

猪肉 Wild boar meat

副腎皮質ステロイド Corticosteroid

プラジカンテル Praziquantel

短縮タイトル ウエステルマン肺吸虫症の1例